

シニアネットワーク連絡会セッション

夢に挑戦する人材育成

Fostering human resources with challenging spirit to Dreams

(5) 21世紀を展望した人材育成についての対話

(5) Dialogue on fostering human resources through 21 century

*櫻井 三紀夫

シニアネットワーク連絡会

1. はじめに

エネルギー産業、とりわけ原子力事業は、国家 100 年の計を持って進めるべきもので、人材育成はその要となる。人材育成の基礎をなすのは夢であり、夢が科学技術を発展させ国を発展させてきた。SNWはこれまでも工学専攻学生に対しては学生とシニアの対話事業や国際社会で活躍ができるヤングエリート育成事業で、対話を通して学生の原子力事業への関心を提起してきた。一方、教育系や文系学生に対しては、将来の世代のリテラシー向上の期待を伝えてきた。

しかしながら、昨今、原子力の将来を支える人材不足が懸念されるようになった。飽和した日本において若者が夢を持つことは大変難しいことのように思われる。果たして若者は何を夢と感じ、何を考え、教育界、産業界はどのように人材を育成しようとしているのか、そこに齟齬はないのか、等について対話を実施し、課題と対応の方向性を見極めていきたい。

そのうえで、学生の原子力事業への期待とそれにシニアがどう応えるかを改めて考え、今後の学生とシニアの対話に反映して行きたい。

2. 対話の進め方

セッションにおいては、大学教授、大学院生、企業のエンジニア、シニアネットワークの会員、それぞれから、「夢に挑戦する人材、および、それを育成する考え方」などについて概要を提示し、登壇者と会場参加者を含む全員で対話を進める。

3. 21世紀を展望した人材育成

21世紀の重要課題であるエネルギー問題、環境問題を考えると、原子力はエネルギー源として不可欠であり、長期に亘ってしっかりと取り組んで行く必要がある。そのためには、原子力に対して世代世代の若者が夢を抱き、それを実現して行ける人材となってもらうことが重要である。

そのような人材の育成のためには、①原子力という総合技術を担える人材、②海外の原子力に関する機運を体験して日本の夢と実業に転換できる人材、③夢を持つと同時に現実をよく知り、現実きちんと対応できる力を養うと共に、荒波にへこたれない精神力を持った人材、等を意識的に育てる必要があろう。

今回のセッションでこれらの討論を行い、考え方の共有を図りたい。

*Mikio Sakurai

Senior Network.